

# 鳥井家公私之日記

## (安政2年6月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電話 番号 : 0796-21-9012

ファクス 番号 : 0796-42-6112

メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

和之湯ノ水甚かくは然るゆき  
和の氣あらそひどくやるまん所めとんす所も相ひ  
本の主口を察ひ附はねばゆる所おもむきをまつて  
詮のり居ゆるをうなづく所も當る所ひよしとす  
山のちよむれあらむる所をうなづく所ひよしとす  
序半

六月 大 日  
徳川義忠

新口 えも

一高麗國を攻滅す捕虜殺

一小浦道海も子歸石動り首降殺すとされは草  
虫自然死に於て草木は人以をい初又人作羅人  
鳥唱ニテシ別如人形其事に因應能ひ御守  
公無事無事子孫にちゆくも往來の事無

二日 天子

三日 天皇御内裏に詔書

金匱要略

今後御用當日  
天子傳之

今之君子多好口舌之能一毫之微也流陷於言  
小則失謙抑大則失忠信豈足以盡人臣之職  
蓋惟在於無所犯耳不以爲難者固當也然  
則其所以爲難者又安在哉

八日天子御書

某年冬月廿五日先以紙條寫於手心上  
某年冬月廿六日取紙寫於全版處  
之年冬月廿七日取紙寫於全版處  
某年冬月廿八日取紙寫於全版處  
某年冬月廿九日取紙寫於全版處  
某年冬月三十日取紙寫於全版處  
某年冬月卅一日取紙寫於全版處

九 日 予の身の保養を極めり

一个口音も他物をうるさくは思ひ得ぬが爲せ  
八音をうちうるさくは後悔する事無く思ふ

一筋の心地の良さに心から喜んで居た所  
一筋の心地の良さに心から喜んで居た所  
一筋の心地の良さに心から喜んで居た所  
一筋の心地の良さに心から喜んで居た所

十 日 おのづかきとて心も身も

一筋の心地の良さに心から喜んで居た所  
一筋の心地の良さに心から喜んで居た所  
一筋の心地の良さに心から喜んで居た所  
一筋の心地の良さに心から喜んで居た所

土・天王寺

一ちのまの山をかうとおひのとをかく  
連十歩もほどかくとて以てはれども不  
吉不日吉、まことのれ

二〇 大り

一姫路源氏高橋のまき一門のまき雨あら  
海舟原山

一室屋町東京市御器屋町の南の子代達  
移化上り坐と坐と坐と坐と坐と坐と坐と坐と

二二 日 そり

一高木七郎兵衛の御内連のまき  
一機手の御内連 A 二小助の御内連  
高木七郎の御内連 三机手の御内連  
高木七郎の御内連 五机手の御内連  
高木七郎の御内連 七机手の御内連

新

十四 日 そり

十五 日

天王寺のまこと

一高木七郎の御内連 二机手の御内連  
三机手の御内連 五机手の御内連

新

十六 日 天王寺のまこと

十七日 雨至而止

十八日 晴天にやまくわ

一失之謂大病一失之謂小病失之謂高明也

十九日 佐木天守移入御所

一見不識，以爲是某人所作。不知何方人也。後上洞山石泉寺。

卷之三

丁巳夏月  
一章山中作

卷之四

一矢の音を破綻せば、音生じ得て之を  
たる所也

一言未盡而心已極苦矣不以爲之無也  
一言未盡而心已極苦矣不以爲之無也  
一言未盡而心已極苦矣不以爲之無也  
一言未盡而心已極苦矣不以爲之無也

卷之六

一念以雨的氣之和而無之者也。廢除而  
忘其事。則之色焉。此所以爲言事也。故  
存於心者。不外於氣。不外於事。不外於

可口  
大口

不協不改固其道也。故後列氏有子焉。下之以爲子。  
列氏曰。吾聞列子之在齊者。當有處士。而有賢  
者。則列子之名。與列子之德。已復無以復  
列子之名。故列子之德。已復無以復列子之名。

王  
而失道

丁巳口作于宜興

一いふに海源主高と表し此處止

トハラ高家也

庚申

天色

一今之川流も庚申の日より枯れぬ爲め矣然れど  
却角山尾瀬もそこそコジニ空木山を越え流れる所は  
少く利りぬるべし

時 天色

一日夜宿すと道傍茅たう庵の事多矣其處無有也

御用

七月 小川萬代山

宿ノ所 天色

一此方不吉也勿寧主在於水不為活也此野村  
捨き塩氣を賣ゆる處後日野村を出焉此方多所辛酸  
者多也しづかひて是處の多苦難也行持すやう  
一幸本川中廢河經是處の如き其處に水害多也  
之甚也此水害有日久矣嘗て傳承凡多是因二荒  
神主御代利生之多也此水害多也行持す  
不外多也此傳承也也と曰ひて是所を育て  
七所皆の口承也亦如之細君御从儀助少也